

ケアプランデータ連携システムの導入により、毎月の提供票（予定・実績）のやり取りがスムーズになり、業務の効率化を図ることができた

成果	業務の質の向上	・電子データでの連携により手入力や記載ミスが減り、やりとりがスムーズになった。
	量的な効率化	・担当職員の負担（書類の持ち回り）軽減。文書量、作業時間の削減。

課題

・実績や計画書の持ち回りに要する時間や、提供票の受取待ち、書類の不備によるFAXなどの送付の手間が生じていた。また、FAXやメールでの個人情報のやり取りはセキュリティ面で不安があった。

解決のしかた

<ケアプランデータ連携システム導入>

- ・介護ソフト、電子請求用ID、連携可能な居宅介護支援事業所を確認のうえ、電子証明書のインストール及び製品のダウンロード。
- ・フリーパスキャンペーン（ライセンス料 通常21,000円/年）利用申請。
- ・現時点で連携可能な居宅介護支援事業所（くにくさ・ヒロエの杜・安芸地区医師会）へ運用開始の連絡後、7月分より開始。（さいせいは8月分より開始）

書類を郵送したり、FAXを送ったりすることが面倒くさい...



手入力での作業が多く転記ミスが多い...



書類の管理とやりとりが煩雑で混乱する...



ケアプランデータ連携システム 3つのメリット

かんたん



計画書(1表、2表)や提供票データ(6表、7表)といったCSVファイルなどをドラッグ&ドロップするだけで送信準備完了。
郵送やFAXなどの送付の手間から解放されます。

あんしん



記載ミスや書類不備が減り、手戻りが減少。
介護報酬請求で使用されているセキュリティ方式を採用し、安全性は万全。
導入から運用まで、安心のサポート体制を提供します。

さくげん



やりとりにかかる業務時間を約1/3に抑えられる研究結果があります。
費用については、ライセンス料21,000円の投資で年間約80万円の削減が見込めます。

〔出典：令和2年度老人保健健康促進事業「介護分野の生産性向上に向けたICTの更なる活用に関する調査研究」〕